



心之双串
下

特 別
^13
2261
2



13
2261
2



十七 十六 十三 十一 九 七 五 三 一

以之物
物乃之
めがれ物
まぐさる物
なつらる物
はらる物
まじり物
おしめ物
くまき物

尤之双紙目録

十八 十六 十四 十二 十 八 六 四 二

さす物
ららる物
まらる物
まがらる物
こわらる物
いつらる物
まらる物
まらる物
まらる物



岸本家藏書



漢藏本

嵯我山

十九

めづき物

廿一

まろふきの

廿三

乃ぼるきの

廿五

ふぶきの

廿七

あさねお

廿九

つらりお

卅一

さびき物

卅三

まぐしき物

卅五

きびのちき物

卅七

丸き物

卅九

あしねお

卅

おのへき物

卅二

めづなるきの

卅四

ふぶきの

卅六

あさねお物

卅八

さうねおきの

卅

あさねお

卅二

まげき物

卅四

みづき物

卅六

つらねきの

卅八

にらねお

卅

目か度物

朝田家藏書



いをおろしおたれ

一。小。う。た。の。せ。て。い。さ。さ。ん。を。ひ。く。平。家。の
食。ひ。も。成。り。身。成。り。て。り。祖。成。り
ま。り。し。ま。乃。祖。に。あ。り。ま。た。め。り。ま
と。き。め。の。山。成。り。又。わ。た。れ。れ

お。の。牛。の。車。を。ひ。く。出。け。つ。き。さ。さ。の。草。を
引。膳。を。た。り。て。い。さ。さ。を。ひ。く。い。さ。さ。い。い
ひ。く。塩。引。や。酒。も。い。ま。り。引。お。い。ろ。あ。た。り
り。て。小。神。を。引。客。り。を。ま。り。馬。成。り。乃
こ。し。り。よ。神。成。り。神。乃。ま。り。ま。り。あ。り。ひ。く

佛。乃。ま。り。ま。り。施。行。を。引。殊。扱。ひ。く。亦。地。ひ。く
ろ。く。後。引。亦。を。ひ。く。石。ひ。く。亦。を。ひ。く。め。を。引
引。ひ。く。腰。を。ひ。く。さ。り。さ。り。つ。あ。ひ。ま。あ。り。こ。り
釣。り。ま。り。亦。成。り。ひ。く。の。魚。乃。う。も。に。を。網。を。ひ。く
こ。り。ひ。く。い。ま。り。あ。り。れ。あ。り。ま。り
又。仲。哀。天。皇。吳。國。た。い。ち。の。た。め。よ。ま。り。を。り。に
つ。る。又。律。り。あ。り。ま。り。あ。り。れ。な。り。時。は。陽。室。乃。り。に
及。上。人。乃。り。あ。り。ま。り。あ。り。れ。は。陽。室。乃。り。あ。り。ま。り
ま。り。の。野。乃。り。あ。り。ま。り。あ。り。れ。中。乃。り。あ。り

を守。屋敷の事を守を以て守。ぬれを以て
 うを守。梅を以て守。づらぶ。守。守。守。
 守。守。守。守。守。守。守。守。守。守。
 守。守。守。守。守。守。守。守。守。守。
 守。守。守。守。守。守。守。守。守。守。
 守。守。守。守。守。守。守。守。守。守。
 守。守。守。守。守。守。守。守。守。守。
 守。守。守。守。守。守。守。守。守。守。
 守。守。守。守。守。守。守。守。守。守。
 守。守。守。守。守。守。守。守。守。守。



物乃一 ぬれ守

一 天神七代たいていの及あ。國くにとこたつ乃の尊も。地神ちじん共とも代たひ之の
 及あ。天照あまてらす大神おほみかみ。人王ひとみこと乃の及あ。神かみ氏うぢ天皇てんかう。男おとこ女むすめ又また婦ひと
 我われ。伊い弉し諾だく尊のみこと。人ひと間ま乃の及あ。大おほい王みこ。女むすめ乃の及あ。きさね
 云い家け乃の及あ。大おほい政せい大臣だいじん。武家ぶけ乃の及あ。将軍しょうぐん。儒者にうじゃ乃の及あ。
 孝子かうし。孔子こうし。佛法ぶつぽう乃の及あ。釈迦しゃくか如来にがひ。歌うた乃の及あ。まきぎ
 鳥とり乃の及あ。雲ぐも乃の及あ。回まわ乃の及あ。稲いな乃の及あ。田のり乃の及あ。池いけ乃の及あ。きり
 まし。

八重し。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。
 八重し。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。
 八重し。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。
 八重し。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。乃。

けいこうり三十一字れこの榮るはわりきり又
建二并れ曲き伊茨諾伊茨冊名をうめてみる
まくむいり戸う一耐伊茨諾名

あふうねにやうまうまをめぐらぬ
せつひうもほり伊茨冊名

と付おみと女祓曾祓けつふうて建二并れ
物よとれし天台乃んハ梶井殿青蓮院を言
乃んハ河室寺妙法院山伏乃んハ聖護院
若王寺馬乃んハ観音牛乃んハ牛頭天會く

もれんハと屋れんハ氏乃んハ源平藤橘
兵法乃んハ張良一年れんハ元三和乃んハ梅
月乃んハ八月十五日座當乃んハ檢校并れんハ
を乃んハ大乃んハ多乃んハれうりつ積乃んハハ
えとるおこころかりまや一敵乃んハ多しり
平れんハ上略中略下略七乃んハハ乃んハ三乃んハ
及此外乃んハ教つてつて乃んハ乃んハ乃んハ
乃んハ地遠乃んハ乃んハ日用乃んハ龍乃んハ魚乃んハ中乃んハ
乃んハ乃んハ小身乃んハ仲乃んハ乃んハ乃んハ乃んハ
乃んハ乃んハ乃んハ乃んハ乃んハ乃んハ乃んハ乃んハ

きやうくうくうくわのひまみーら十二子于於
甲子。鱗羽。裸毛。甲乃乃たれり。鱗乃乃就
羽乃乃を鳳凰。裸乃乃人。毛乃乃麒麟。異
久い龜。有財。一体和尚のねり。

人を或生さるるにひのまうと鯛

小神とこころをいひてをみよし野

四

くらいらねおのり

主上。南白。將軍。これいめり。あそひあはれあふたふ
は朱印。前司代。在屋。出火人。勇者乃乃まらね人
ゆうとく人。上手けくし。行あそひ一瓶ははま

夜ハ扇子。秋を月。赤良法白子。う名乃乃茶
沈香乃中。伽羅。藥汁。甲乃乃人。愛。音中
おの。夜并身。をあふさ室乃乃。ちり。大ふれひり子
まふ。せし生るる。天海のり。記

五

めらねまのしかまね

一二六時中。天路とのらね。日月。小辰。ま前
わて。まう。白い。おん。日よ。むよ。てめ。さ。あ。あ
乃ね。や。つ。ま。め。ら。ね。な。う。時。あ。ひ。り。あ。さ
き。水車。式連。子。れ。ま。ま。う。よ

いらまあやたうはりし

付与

又 赤火入一我乃八層寺三へ乃等

みりり子れおきりつみ乃凡車

田づら城のられき。山水。三界をのろつ。會家僧を

をめら。六十六部。大慈大悲乃。觀音堂。三千

三番札。札を打よめられ。願。なるもの。二市法重

が。まろそめられ。廻文。まろそめられ。願。なるもの。二市法重

められ。盃。町をのろつ。番。なるもの。二市法重

まらら。又。大。なるもの。千。少。山のり。まらら

山。う。ま。なるもの。千。少。山のり。まらら

お。なるもの。千。少。山のり。まらら

れ。そのま。なるもの。千。少。山のり。まらら

一旦。の。なるもの。千。少。山のり。まらら

き。二。なるもの。千。少。山のり。まらら

めりりまぬ女の。きぬ乃七車

六 中ノ世の事

一。の。なるもの。千。少。山のり。まらら

柏子。なるもの。千。少。山のり。まらら

海。なるもの。千。少。山のり。まらら

富。なるもの。千。少。山のり。まらら

花。なるもの。千。少。山のり。まらら

考くまよひの若菜子。酒盛まよひのまよひのまよひ
ひたるまよひを目もまよひぬ

ひたるまよひに一筋はみよひのまよひ
人もまよひぬまよひのまよひ

七

一麻乃中れよのまよひにまよひまよひまよひ

人もまよひぬまよひのまよひまよひ
まよひのまよひまよひのまよひ

まよひまよひのまよひのまよひ。まよひまよひ

まよひまよひのまよひまよひのまよひ

竹まよひのまよひまよひのまよひ

まよひまよひのまよひまよひのまよひ

まよひまよひのまよひまよひのまよひ

正直れ二字。まよひまよひのまよひ。まよひまよひ

其身直敷不曲。其改正民不邪

板倉乃山田につめぬ。まよひまよひのまよひ

まよひまよひのまよひまよひのまよひ

まよひのまよひまよひのまよひ。まよひまよひ

代乃まよひ。まよひのまよひ。まよひのまよひ

橋乃まよひ

下

九

山伏乃いぬり。ちらあ。馳乃むらう。ら。ら。ら。ら。ら。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
虎。狼。魂。を。古。年。り。り。

その中へさうあつさゆふあふん
人乃らららあやふみくれ

土

まこもあつらあ

一君子の一言。神を二言。あつらあ。ら。ら。ら。ら。ら。

あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

り。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

いつらあああああ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

た。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

主者必滅のむら。除君。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

ちぢい人。此口成る詩子灯きり

請君早解腰間劍
莫掛秋風墓樹寒

古

いつちおあつゝあき

一むうらうらうあつゝあきう人乃さうさ
さぐらうのゆゑぞくらうわらぬもあはらわ
あまのぬれぎぬ此いれむうらうさしの圃に
有人むもあ一人きらぬけいあの中たみ
きらまのぬれぎぬさうらうさあめあはら
たらたあきう。うらうは是あめさきさそ

あま人きさうて我衣成らうゆ身てゆらう
あつらうあなうあま衣中人あさあ成る付
あり。ちく是あきあ盗人乃あわむ世の光
さぐらうとあきあやうさうさう。其あ
のちうがいにみしゆあく一首ぬるああ
ぬきあああそのたさうれぬれあ
あうあああああああああ

又偽乃ゆつれてさうらうあああああ
さうむ乃さうさうらうに趙壁とらうああ和
う夜光のあさうさうあああああ城十五

おみゆりて。遠くして。禁定け。新く。及ら。ま
きそ。とら。に。掃。成。う。こ。き。に。ス。人。を。禁
定け。とい。む。お。た。り。一。人。を。禁。り。ま。れ。て
二人。の。人。を。一。人。に。く。ま。ひ。き。り。これ。を。三。考
とも。と。ぞ。い。つ。て。人。を。禁。り。ま。れ

十四

くすみ。う。お。の。一。ま。り。れ

一不動。乃。か。も。や。子。中。に。物。が。り。下。房。が。り。地
と。と。り。成。り。ま。し。き。志。乃。茶。乃。前。ち。れ。お。祀
に。し。け。り。こ。志。乃。う。ま。い。乃。ぎ。り。地。ま。り。こ。り。ま。り
口。り。に。王。乃。和。言。に。ち。り。た。し。う。う。約。ハ。そ。ね。い。り

方をま。け。て。ま。い。り。子。乃。り

十五

まの。い。ま。ぬ。お。乃。あ。し

一。あ。う。ち。お。し。す。ま。う。け。う。に。お。り。ぬ。の。ま。あ。り。ひ
ひ。う。ち。ら。ま。の。ま。し。や。あ。し。と。二。世。成。る。の。う。り。い。れ。と
乃。中。也。孫。を。心。と。成。り。あ。て。ひ。く。や。う。り。の。時。を。ま
待。の。ま。繁。す。た。う。に。お。し。す。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま
ま。げ。漢。皇。ハ。李。丈。人。乃。ま。り。孫。井。泉。殿。乃。ま。り
似。孫。ま。り。し。て。お。し。す。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま
い。ち。す。ま。り。り。守。人。孫。志。う。さ。の。ま。ま。あ。り。見
お。り。た。ぬ。ま。り。又。僧。正。遍。那。の。ま。り。良。峯。乃

宗貞^{しんけん}申^{まを}く好色^{こうしき}ありぬ^ぬ。是^{こゝろ}を帝^{みかど}公^{こう}みんと^{みん}や。然^{しか}乃^な其^{その}心^{こゝろ}を^をて山吹^{やまぶき}乃^な花^{はな}を^を引^ひくよ^よては^は山吹^{やまぶき}乃^ならに^にわさ^せむと。宗貞^{しんけん}是^{こゝろ}を^をきこ^{きこ}ふ^ふ。何^{なん}ん^んに^にい^いふ^ふか^かあ^あの時^{とき}

山吹^{やまぶき}乃^なれ^れる^る衣^え女^{むすめ}と^と思^{おも}は^はれ^れ
や^やと^とい^いふ^ふも^もら^らぬ^ぬに^にて

おそ^{おそ}ぬ^ぬに^にま^まづ^づい^いふ^ふけ^けあ^あき^き新^{あらた}枕^{まくら}又^{また}其^{その}原^{はら}氏^し中^{ちゆう}ら^られ^れ志^し人^{にん}の^の仰^{おほせ}て^てど^どの^のま^まに^にい^いふ^ふま^まに^にお^おの^のり^りい^いふ^ふに^にち^ちき^きり^り清^{きよ}く^くむ^むつ^つま^まに^にお^おの^のり^りい^いふ^ふに^にお^おの^のり^りい^いふ^ふ

あ^あな^なら^らぬ^ぬ水^{みづ}乃^なり^りき^きふ^ふり^り

い^いふ^ふそ^そお^おの^のり^りい^いふ^ふに^にお^おの^のり^りい^いふ^ふ

い^いふ^ふそ^そお^おの^のり^りい^いふ^ふに^にお^おの^のり^りい^いふ^ふ

あ^あお^おの^のり^りい^いふ^ふに^にお^おの^のり^りい^いふ^ふ

い^いふ^ふそ^そお^おの^のり^りい^いふ^ふに^にお^おの^のり^りい^いふ^ふ

い^いふ^ふそ^そお^おの^のり^りい^いふ^ふに^にお^おの^のり^りい^いふ^ふ

又^{また}夕^{ゆふ}霧^{きり}乃^なれ^れる^る言^{こと}太^た子^し乃^なれ^れる^る。仙^{せん}魂^{こん}

子^こ曰^{いひ}天^{てん}竺^{しやく}乃^な大王^{たいわう}ま^まを^をく^くま^まを^を太^た子^し十^{じゅう}三^{さん}年^{ねん}お^おは^は

乃^なれ^れる^る。父^{ちち}帝^{みかど}乃^なれ^れる^る。羅^ら漢^{まん}乃^なれ^れる^る。乃^なれ^れる^る。乃^なれ^れる^る。

羅^ら漢^{まん}曰^{いひ}乃^なれ^れる^る。乃^なれ^れる^る。乃^なれ^れる^る。

其れよりあまの童子是をきく曰。房乃人に
 おくしゆるはやま人ま如知とをく入る。わす
 をしんれしくたく死のり石よまおし
 うらりうらうらとあさねまむらぬみたり。悪道
 みあらしてのら。太子にまふゆゆ。言言太子は
 又都粟田口に三志したるやいへれまあり。中
 身いをも積して口をささぐくを。口きたらみ積
 きう積し。内まぬ大所れ作あり。さねを尋か
 何のりをみさるいさるさるきうゆれを
 たかたけまらまらるありきう

かくりゆたに。わつしよまめはお積をむるく
 我のまにを穴。對受乃場へおまねを。あす
 そろろりわらよ成うし。はつえゆりぬ

十六

一三番乃ら相撲。合戦乃軍兵。新しあるひ
 尸にみるひ。年次八朝下れ社をよ。若力
 物紙乃奏者よ。てみれら。はつひのあま
 むく。天智天皇筑前回るるやれ。行はれし
 きくひさいしきつて。丸まをひてたくる
 皇者あれをとて。ま丸友と。りなる。其乃田の

病りまわれもやが初まの月を^いは^はり^しま^さき
 う後あれも^い用^心ま^しく^して^新國^所
 かま^へ。は^はの^人とあ^はる^分て^と御^一言^口
 まお^はの^流製^衣も

めさうらやま^れぬ^よの^子神^をれ^し
 久^はり^さく^つ行^ただ^らぬ^し
 又毛^打千^句よ

つふ^又わ^れと^引と^あ神^是
 久^はる^もは^初久^又も^とあ^まり^一
 み^らの^好く^もと^あす^うぬ^乃や^と詔^巴

け^白の^初の^まの^ま元^のれ^れの^もの^りて^先源^氏
 月^子う^れて^三き^夜の^三れ^戸口^は行^とか^く
 た^もみ^あく^もる^にお^ある^月お^にき^也
 あ^一や^うら^もと^おの^よを^源氏^の君^やを
 元^立ち^りて^に神^をい^くお^はり^して^いく^もき
 こ^ゆり^てい^はの^原あ^しや^おの^はり^け
 と^引と^あの^おの^ては^らき^りあ^らる^もあ^まき
 初^りう^らて^われ^はら^面新^く又^みら^れ行^や
 久^の白^の衣^の大^侍あ^すり^針れ^君う^つま^さた^に
 ま^をお^のま^ぬ。仁^和寺^乃い^きく^やい^れは^はり^し

うろと名はるややしむとて
前参議親澄卿

おらやこそぬりふらる子親
おれ丸よの儂なただてとや

河ね發白

那云ふはるハウれたたよ

廿七

うまきおの

一女れ河りまりてちやむらり。おんららもたたら
つこた、こからなるらありやましや河あ
まめきれをいさすのまて。おらすひくを

車れとろくを。おありれを。百姓の屋孫

ふく。まろれ地場。谷川。河うそ。てらやれ

いぬのあつと。あまのち。ワきみの。練虫

ましよおくくら申のあつらひ

廿八

志の志

一流八海の流。若僧の法。称名乃

坐二拜遥阿孤雲上。聖元來迎。落日あ

とあわれも佛をわき子あつらひ

南無阿弥陀仏のこゑをうりして

高野山たかののやまのり火。きんまのたぐり。高たかのたぐり
のきり。世よをたぐり。文ぶんのたぐり。高たかのたぐり。
海うみのり。行ゆきのり。結むすむ。安やすのり。高たかのり。
まうで。神かみのり。まうで。まうで。まうで。
何なにのり。まうで。まうで。まうで。まうで。
まうで。まうで。まうで。まうで。まうで。

十九

起おこる元もと三さんの儀ぎ。高たかの儀ぎ。子こ親おや一ひと拜まが。
まうで。まうで。まうで。まうで。まうで。
まうで。まうで。まうで。まうで。まうで。

高たかのり。高たかのり。高たかのり。高たかのり。
高たかのり。高たかのり。高たかのり。高たかのり。
高たかのり。高たかのり。高たかのり。高たかのり。
高たかのり。高たかのり。高たかのり。高たかのり。
高たかのり。高たかのり。高たかのり。高たかのり。
高たかのり。高たかのり。高たかのり。高たかのり。
高たかのり。高たかのり。高たかのり。高たかのり。
高たかのり。高たかのり。高たかのり。高たかのり。
高たかのり。高たかのり。高たかのり。高たかのり。
高たかのり。高たかのり。高たかのり。高たかのり。

だん けつらまを ぬたうのうを トロリ ちりくをまきとまきとひらうと
内園ふ切温湯水 だんがかののうをまきと 二月中旬旬已進瓜

えめづき だんがかののうをまきと 橋法兄郷。ここよの回よりたら
ぶふをとりにて久し

たら新きをさえ花さそその葉え
おほいそくとま てときいはい まきとまきりのま

六

おりのろふおの飛

一神代乃び目神天岩片たきこりり
ういおこやうの世とありぬ。八百方神。岩片乃
まらしく おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ

ゆりま おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ
ひー おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ
月夜のおりろふ おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ
初音のおね おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ
秋 おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ
停車坐受楓枝晚 霜葉紅於二月花
冬 おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ
つ おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ
て おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ
雪 おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ おほい ぬそ

まらもおまはる。あひてにちりて。ごまや能き
おりろ。持意うたうそのかう一さるせり。やま
あやかりろ。讀学どくがくれうまやもあそは
おし屋やうに。作さりまをまおりおはる。所
想馬ロバハくしらすまろ。おひし。

六

ほろよおろしおまれ

一人のあやハ子父ハまろよ。古舞こぶり
人のおやけころハ屋やうにのねん
子知こちおろしみる。ちうひおろし

ましおの道みち。ちけみろ。おみろ。おみろ。おみろ。

乃みろ。おしおまろ。お山みやまのみろ。まはれぬの
きりかまよまののみろ。心つるあまのちりけみろ。めろ
の杖つえ。あひみろ。されむさうけまの是こ。能き
せむたに是こ。迷まよろまの是こ。非ひハきねまの是こ。

七

あまおまのあま

一世せ回けハ。にまむ。色いろやうやう。にまろや。はまろし
くまら。まろし。

ゆめの世よにまろ。けまろ。まろ。まろ。まろ。
まろ。まろ。まろ。まろ。まろ。まろ。まろ。まろ。
向むかのまろの灯あかり。日ひけまろ。まろ。まろ。まろ。まろ。まろ。まろ。まろ。

昔の甲斐、ちれり屋のたき
 ひまりのうぬいづれ乃を
 びくあづらぐせ、たこ、おしあのみ
 身はみ成すつくと、成さかぬ
 おしあぬ人を思ふまの
 としりきだ

物成をまじれりさるりぬへし
 たまきうけ母強みのこさるるふ

又おとこぬ
 雲のうへにそのあつちらひみ

ちかたのこむ人乃こあは

又女うゑ

行水一り、あつくりきさるまは
 ねをたぬ人を、おしあぬきり

又おとこ

ゆくあつちらぬよふいとちる花と
 いづきかきしよ、あつちらぬ



乃ほれまのあ

雲をうゑぬ、おとこ、あつちらぬ
 調也。新門鯉。衣川。鱈。古舞。一

まのりつらきよぢて見ゆを夜門
もそのほろひさけのりし

ふゆのこまの程と多物人。まきの野のひたり。林
乃まれう強もむさる。たしき乃る。二階のあ
心つく。れむらう。あつらき。同大。奉。強。けくし
入山。清。同。ちうて。富。七。まうて。め。で。た。を
乃ほらさうのよ

まらまの位乃女の小ねさう

こしや子代のもめあし

らあ山さあ所まういそく

まののむまやいハハハハ

こけうさたたかひくや強き人
ううぬ乃山乃まねとらう

十四

くがれあ乃あし

あがまらんうのよ。ほく。へん。さう。の。あ。れ。し。
峯。れ。つ。ま。本。や。さ。う。ら。び。と。ら。り。て。さ。う。の。吾。乃。店。
五月。ぬ。れ。を。い。ら。り。ぬ。く。あ。り。た。ら。う。時。の。り。
乃。梁。瀬。乃。結。う。め。き。い。し。む。ぬ。ぬ。れ。に。り。水。に
さ。う。り。れ。り。時。し。も。ま。竹。由。理。の。ま。に。せ。う。じ
け。い。夫。人。ら。さ。う。た。め。し。あ。り。も。結。と。は。り

かりが祿乃平沙子りつはのらり。谷子きりごとく宮
榎氷乃あうれり。きまろみみどくさるすも有
巴豆大黃や牽牛子いづまのり。菜を

五 やよわ乃まれく

一もろう。秦始皇をたごり。きうまをせり。や
り者。えし乃うづ。まをきまろ。うべをまらて
二人し。あして始皇へちうきまらて。門をひ
まらり。もそへにさ。こもして。や。ま子
く。や。ま。し。や。も。あ。れ。理。の。ま。に。や。ま。ら。く
まらう。い。れ。ん。を。ら。り。ま。子。み。し。衣の神を

きりて七尺乃屏風をどし。越おのりて。つ。も
ま。し。ま。ま。ぬ。く。又。秋。物。た。る。の。の。船。軍。り。
能やも。教。經。深。氏。乃。大。将。う。り。の。外。め。に。け。出
まり子。た。く。い。む。ぞ。に。あ。や。う。く。み。ま。り。
う。う。の。う。か。り。も。や。が。り。く。し。三。丈。を。り。も。隔。
たる。兵。船。ま。び。う。つ。り。お。お。り。教。經。ち。う。か
く。い。飯。を。か。く。う。と。あ。い。ま。り。安。藤。大。師。次。元
と。い。へ。れ。兄。弟。た。お。と。あ。の。わ。ら。た。さ。し。た。さ。み
て。海。と。い。り。ゆ。り。ぬ。又。紅。州。能。野。の。権。現。を
い。ま。い。し。れ。流。あ。げ。ま。ら。さ。し。あ。ま。り。中。子。あ。は。る

あつ〜きぢびのまじや。ひらめあひ傷を癒
理をせらぶらふり〜れさ。きれげさ
虎乃も〜まじらひのまじらひ。母あひさ
それちりそあふ人乃書あぬさし

さあふた〜あひさう〜さよ衣
秋つまあぬつあふらぬさ

次七

あつあ〜あつ〜あつ

ひらり〜理にあつあつ。理はは度よたさあ
ぼあひ時わさしよあさる。まじらひ天通よあさる
む〜熊野のむ。津川の窪がり人あひさ時

〜はあさるよ。〜まじらひらりて。くらあひれ
ま〜まじらひらりて。〜まじらひらりて。くらあひれ
ま〜まじらひらりて。〜まじらひらりて。くらあひれ
ま〜まじらひらりて。〜まじらひらりて。くらあひれ
ま〜まじらひらりて。〜まじらひらりて。くらあひれ
ま〜まじらひらりて。〜まじらひらりて。くらあひれ
ま〜まじらひらりて。〜まじらひらりて。くらあひれ
ま〜まじらひらりて。〜まじらひらりて。くらあひれ
ま〜まじらひらりて。〜まじらひらりて。くらあひれ
ま〜まじらひらりて。〜まじらひらりて。くらあひれ

下

上

。土のまき(まき)とありぬ。ナ津川の如(ごと)く梅(うめ)色(いろ)羅(ら)綺(き)。
是(こ)し。惟(ただ)喬(たけ)乃(のみ)位(い)。惟(ただ)仁(に)子(こ)もさる。六(む)きう(きう)計(けい)色(いろ)を。
揚(やう)貴(き)妃(ひ)子(こ)あらう。祇(ぎ)王(わう)六(む)佛(ぶつ)子(こ)たさる。女(むすめ)并(なら)らうを。
男(おとこ)子(こ)たさる。世(よ)にハ行(ゆ)らう。う。せしを。
めしやうに。おさる。そく。い。ハ。ら。に。あ。さ。る。腫(しゅ)お(お)い。せ。
そ。り。子(こ)も。さ。る。外(と)糧(りやう)志(し)ハ。出(い)出(い)人(ひと)子(こ)た。さ。る。一(いつ)こ。の
産(う)み。の。よ。い。子(こ)も。さ。る。歩(歩)積(せき)那(な)集(じふ)乃(のみ)口(くち)わ。を。
人(ひと)子(こ)た。さ。る。外(と)右(みぎ)方(かた)不(ぶ)つ。は。の。も。ろ。に。あ。さ。る。

天

う。う。お。の。あ。

一(いつ)身(み)の。意(い)に。し。る。又(また)必(かならず)お。り。し。意(い)に。し。る。

。鹿(か)を。祿(ろく)に。し。る。年(とし)首(うぶ)の。地(ち)又(また)よ。い。う。う。百(ひゃく)姓(せい)
乃(のみ)子(こ)ハ。人(ひと)質(しつ)子(こ)や。う。首(うぶ)ハ。勇(ゆう)者(しゃ)子(こ)や。う。お。
室(むろ)を。凡(およ)に。し。る。う。高(たか)人(ひと)
の。馬(うま)ハ。血(ち)ハ。う。と。く。
に。し。る。早(はや)苗(なえ)を。其(その)日(ひ)男(おとこ)女(め)子(こ)も。う。お。藥(くすり)代(しろ)を。醫(い)。
師(し)子(こ)や。う。お。提(た)子(こ)ハ。若(わか)に。し。る。う。ろ。の。川(がわ)
も。あ。ひ。て。乃(のみ)急(いそ)に。し。る。う。せ。に。し。て。い。た。
を。や。う。お。こ。た。ら。よ。い。志(し)ハ。口(くち)に。て。成(なり)ら。る。
も。ら。う。ま。ま。け。て。ハ。女(むすめ)と。う。お。屋(や)に。お。け。れ。子(こ)

るものもまてとむといへり

菟 けりけりけりけりけり

一 下筋のりまの言るにあつた。紅き園生に

うへるものけりけり

こ山まれそのこままのりみしり地

ころろきとれまあつたけりま

海へますれま

西の海あけまうりりの浪さうり

けりけりけりけりけりけり

うへるものけりけりけりけりけり

骨細子よ心知さるるけりけり

けりけりけりけりけりけり

陽華あつた

や土のたつた福地乃そのに格まき

あつたあつたあつたあつた

まけつち中もけりけりけりけり

けりけりけりけりけりけり

けりけりけりけりけりけり

女三乃宮へちけりけりけり

下

三

よき船乃君よ丑びく勢りおしせし
宇治入軍や
やしぬもつらふしおつたならぬ
小鳴りさきにちきるこ路を

ふ
立ちぬの小鳴りききりう
ふふふふふふふふふふふふふふ
みかろれつぬしつらふれぬあり

伊勢のうしあしきう浦よりあり
ふふふふふふふふふふふふふふ

服衣分軍きよ降きよし。
ふふふふふふふふふふふふふふ

そのゆかりけきけきらきらきらきら
くふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふ

おのふは何乃よりさりけ

ふふふふふふふふふふふふふふ

衆人のつとまのり重しやむらりれ競乃も
てにゆかりおす盛るびしひもけ書しよめ
池水ききあつてあつてあつてあつて
まじりかむらふふふふふふふふふ
水色乃草やうきくふふふふふふ

あふのうねくおひきくす
也小町^{こまち}がうみく^く雷^{かみなり}はこ^こ合^あきたりくせ
むしき^し所^{ところ}大^{おほ}伴^{とも}れ^れ里^{さと}主^{ぬし}が^が立^たて^てび^びる^る所^{ところ}
万^ま葉^は集^{あつ}れ^れ中^{なか}へ^へう^うこ^こう^うま^まく^く聖^{せい}言^{ごん}百^{ひゃく}奇^き合^あ時^{とき}
是^{こゝ}ハ古^{ふる}尋^{たず}ありし^し里^{さと}主^{ぬし}が^がい^いれ^れ書^かれ^れ小^こ町^{まち}が
うらあめて^てそ^のの^のく^くお^おひ^ひの^の書^かれ^れ集^あれ^れま^まり
き^きれ^れて^て也^も回^まき^きれ^れを^を件^{くだ}の^の書^かる^る也^も所^{ところ}
也^も小^こ町^{まち}き^きれ^れみ^みく^く文字^{もじ}け^けも^もる^るつ^つも^もあ^あや
く^く所^{ところ}れ^れは^は前^{まへ}より^{より}あ^あら^らし^して^てみ^みん^んと^とい^いは^はれ^れ
と^とそ^そし^しら^らに^に水^{みづ}所^{ところ}へ^へ出^でて^てり^りき^きれ^れは

小町^{こまち}の^のさ^さり^りし^しを^をあ^あら^らし^して^てみ^みき^きる^る新^{しん}筆^{ひつ}は
ま^まこ^この^のあ^あら^らし^し古^{ふる}筆^{ひつ}は^はり^りい^いお^おき^きり^り里^{さと}主^{ぬし}の^の
い^いら^らり^りう^うら^らり^りと^とも^もら^ら所^{ところ}く^くなる^る人^{ひと}し^しお^おけ^けを
の^のめ^めど^どい^いら^らは^はら^らり^りる^る人^{ひと}よ^よら^らる^るま^まじ^じの^のあ^あら^らし^しる^る
ま^まの^のあ^あれ^れし^しら^らの^のま^まじ^じに^にま^まり^りり^りり^りを^を
お^おや^やお^おき^きり^りと^と人^{ひと}の^のと^とあ^あま^まり^りて
狐^{きつね}乃^のも^もき^きく^くら^らい^いを^をあ^あら^らし^しる^るあ^あら^らし^しる^るあ^あら^らし^しる^るま^まじ^じ
う^うら^らの^の麻^{あし}を^をな^なを^をと^とり^りけ^けて^てあ^あら^らし^しる^る。学^{まな}字^じ僧^{そう}を^をり^り
さ^さう^うた^たん^んき^きく^くあ^あら^らし^しる^る。お^おの^のま^まの^のん^んざ^ざれ^れの^のあ^あ
て^てあ^あら^らし^しる^る。地^ぢ祇^ぎ代^{だい}わ^わを^をみ^みの^のま^まの^のあ^あら^らし^しる^るお^お

へありまゝして。さよむいあとなり。ほい。うれを
 あきあらしむ。ひのみと。あし。う。お。ふ。ど。よ。む。い。あ。あ。
 ー。ー。さ。う。つ。ー。ー。さ。ほ。ら。ら。あ。せ。ま。し。は。ん。あ。
 い。み。よ。蛇。才。の。ま。さ。あ。し。ま。わ。じ。さ。う。ー。
 く。や。ら。う。さ。し。ま。ま。ま。海。中。へ。い。り。て。て。び。ま。
 み。も。や。し。又。乳。割。道。明。寺。あ。つ。ふ。の。あ。む。
 お。う。ー。て。山。伏。を。か。く。ー。ま。お。や。ほ。ま。あ。ら。れ。
 ぬ。め。り。い。ほ。さ。る。う。く。れ。能。う。ー。て。あ。れ。み。よ。蛇。
 祈。を。あ。ら。し。れ。た。ま。あ。ら。う。ー。ま。

三十一

何れもあつたし

一。あ。き。お。き。野。分。け。は。い。さ。う。の。海。よ。こ。き。お。あ。
 ま。じ。う。り。あ。れ。何。れ。人。神。よ。あ。ら。う。と。あ。ん。
 け。が。軍。お。う。り。曾。我。時。宗。う。き。や。し。き。も。ま。
 う。と。り。ま。だ。の。初。う。ら。あ。う。れ。今。焼。
 の。道。具。大。つ。み。う。ら。れ。ま。れ。る。あ。ら。う。ま。ね。
 さ。め。さ。る。あ。ら。う。ま。ま。さ。く。女。を。あ。い。ま。て。あ。い。
 ぶ。く。あ。あ。の。い。ま。ね。あ。ま。れ。う。さ。あ。い。あ。ら。う。ま。ね。
 大。あ。ら。う。ま。ら。れ。ま。ら。う。あ。あ。い。あ。れ。し。
 ー。海。を。ま。さ。め。ひ。う。あ。ん。の。あ。ー。
 お。ほ。あ。ら。う。ま。ら。り。れ。あ。れ。ま。あ。ら。う。ま。ね。

人たのめあつぬ乃あれ月
おがらふ乃本標のよかららるるを
さる草うわしをさきまらるる

世一

さびきお乃あし

一山でら乃あ中

蘭省花時錦帳下 房山兩夜草庵中

山寺れまのゆあられまそみまら
りあひのよに犯うらりまら

山雲そまらるるさるるさるる

人あまあひあれぬし思入も

ひけひのあのをさるるさるる世一標のよあし

伐木下々山更幽

ひらり縁。花のちる流。却よらるるもまらぬあし

いつもきくおとや人乃あしあし

こぬゆあられのねらあらるる

花ちまらるるあ人もあしあし

山もさびきあしあしあし

ままらるるあしあしあし

うらりあしあしあしあし

世二

乃あしあしあし

下

三十四

一 秋のいづゝにカキ心おの老がカキを
新橋の仲律 夫の 夫の 夫の
夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の

夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の
夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の
夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の

夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の
夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の 夫の

世三

一 心もよめりまゝいふけあふ時の祝言。おや子
まゝだいたの中やくみのおどろり。人中やくもり

さうしつのおあゝい誰もさうしつ。偽り頭おは

おまゝいそ人たなりくおんは
こころまといふてあふさ

まゝまやうきまゝいふにまゝあてまうしつ
まゝまの時おちいふにまゝあてまうしつにまゝ
たらぬ者おちいふにまゝあてまうしつにまゝ
お中へおちいふにまゝあてまうしつにまゝ
あつてまゝあてまうしつにまゝあてまうしつ
つゝい。夕暮れ君とをぬけりいよまゝあてま
一 此にまゝの大まやけりて二人まゝあてま

三

たぐふよさくきりおぼせりけてはつらめくまらぬ
あのお白きる所めれと夕暮と六位とくわとん
かめきりりつむらふおめらたふらうや果ては
あまもまやぶらうさうりるさうては
こぼれあひはきまらうあひはき
あううに玉羅といはれぬ(女)宿の暮り
きうにめうき初風をのこるに宿さう
あかくたふさ所あつてまきて命ゆりぬ
そそきのる所地よまてきねで玉羅きわはれ目
と母びくひる所らうてさう客れをみる

まううくおひささそぞ昔ほのお新皮の里
いといつまはま母ののらりやそあさよ
乃き方施くよおろそをしらふとて二人か
中身り^{MEM}まわく物にさう。種^{たね}種^{たね}て女。オオととみく
あまこへゆきまにまわし男たご一のみく。まのう
まごれびらうあま所いとまうやまおれまこ
むごうのうられ中へまらうれはまらう

あうううううううううううううううううう
いし新皮のうううううううううううううう
まううにちんうううううううううううううう

河りのありし民紀伯たるひうくた陳置の地所
ぬもそそそりき所なるもそわづらにあす。陳置は所
みく。民紀伯が元所りしまたは地と一丈計
へく。伯はあふまねた大きにならうくはひ
陳置りき所なりてその里は名所あるためて
義里と名付ゆりぬ。葛城のうねの勢りより
るりえし方をもそく。久米跡地所なりしは
時づきまら神みあまらうくまししてきね
ちるのちも神をけゆぬひまらうくましして

い日さしれちおのちなりしは
はくおまらふもらふ神
りきさうくしはまり

いまの凡ちあおのうらう
ゆるものことめ筆ちうくまらる

世田 みくらうくまらる

一まらさうしてるうらう人。ひいきのそのけが。あら
こわねらうやう。まらさうけうしてまらさう人
ひがにらうつ方けうするあめく。風のこま。鼻毛
乃あうらうらうらう。れあめらけうするさうす

乃このあつてきたれきうめしきうの女家か
女房とのつらりもあのみき

世五

まじのりきおのしおきれ

一おもゆる死をうらたる。まきまよなめらるる
とりひくゆる野。ひろりてや地たる
たらまへ入るもまじきより。ためまのこ
まじけあらるるか。こいもあらるる。争。星
乃まじけあらるる。ある時をめ。あつて
し水あはる。又松の門にたて氣のりきまじ
ゆよあつた。船。新宅へうつりたる。き

ゆめみるもまじきよりき

世六

つらりおのし

一頂羽威をもつて山城ぬく力も
ちしきいれ。後甲れらつてぬく。又
徳西の八郎為朝の弓力も。八嶋あつた。ま
あつた。船。一艘。あつた。又。船。鬼
教。乃。弓。力。も。大。回。も。て。ま。か。つ。れ。あ。つ。た。鬼
鬼。津。乃。ひ。び。き。り。あ。つ。た。
びき坊。又。和。田。軍。に。ま。ん。ぢ。を。し。な。り
を。清。日。奈。吉。秀。の。ま。つ。た。り。あ。つ。た。曾。我。上。郎

衣玉。大うれむ。つぎ。妙正宝珠。子たるものさぎ
らむ。れむ。さたる。れむ。ぬ。まふ。こ。玉。女。お。ぬ
き。登。の。こ。玉。し

世

に。る。る。ぬ。乃。也

一。子。ハ。仲。子。に。り。亦。ハ。兄。子。に。り。佛。く
乃。と。く。書。を。お。り。け。せ。ら。ぬ。や。う。れ。公。の
子。ハ。も。や。子。に。る。る。や。め。づ。ー。ー。ん

子。ハ。も。や。子。に。る。ぬ。お。の。い。れ。く
こ。く。ー。ま。時。き。の。み。と。う。ー。う。れ

お。ま。の。所。ち。く。に。せ。て。ま。い。い。り。ぬ。り。さ。た。ぬ

に。き。の。の。あ。う。れ。燕。丹。又。孟。嘗。君。秦。の。法
海。國。と。う。き。さ。る。に。函。谷。乃。用。に。お。ら。き。さ。る。あ。と
ち。り。て。き。ち。ら。き。さ。る。に。け。用。法。を。く。曉。難。を
や。り。て。世。の。戸。を。ひ。く。長。き。を。ぬ。を。ひ。く。守。り。か
か。せ。し。や。ら。う。よ。も。下。府。の。者。子。ち。く。鶏。乃。と。ぬ
を。ほ。む。ぬ。の。の。り。う。れ。子。一。急。と。き。成。つ。る。勢
一。く。及。南。乃。鶏。み。ふ。あ。き。さ。る。國。の。戸。を。ひ。く
ま。て。ど。ぬ。き。さ。る。を。け。ぬ。所。年。一。一
あ。所。あ。て。急。乃。を。ぬ。い。さ。る。よ
ら。に。あ。ぬ。さ。の。用。を。い。さ。る。一

ウツリガ
式まきあし

ましつれれ戸らうきあし

そのくやまあひあし

けつらうき船のまはた董大傳のうき舟のき

宇治の里子かくをりあしをけりあし

文のまはた董を禁中はよのわの傳に

内記とくおのよああひあし

里へあしあしあし

うちりんえ入あし

ましてしりやれあし

まののりれあし

ありあし

りあし

やいあし

まよくあし

とあし

あし

あし

あし

あし

水仙花をにんぎょの魚ぎょなり。あしすきじめ子にり
あてきひの本子似り。海棠をたけらにきを
こい祇ぎきにしきし似り。雪の鶴毛つるぎも似り
鳩とぎを鶴つるぎ子似り。狼おひに似り。ふわりな馬うまも似り
鹿しかを馬うま子似り。うぬきしてるといふ事ことを
秦始皇しんじやう死して李斯りし趙高てうかうといふ二人の臣おみ下したり
始皇しんじやう死しる時とき長子ながし扶蘇ふそを位ゐをいけり。然しかし
を書かて李斯りしにけり。李斯りしは状じやうをいけりして
扶蘇ふそをいけり。まよふ。法貴はふきの言ごありて。其その言ご
ころ守まもり。扶蘇ふそありて。其その言ごありて。其その言ごありて。

扶蘇ふそを器用きやういようあるものなり。扶蘇ふそを
胡亥こかいといふ二番にばんの男子おとこは。幼少ちゆうせうなる所用ところづかひの
二世にせといふ李斯りしを趙高てうかうにけり。秦しんの
政まつりごとをつとめし。やや。其その子こ。趙高てうかう又また李斯りし
をいけり。李斯りしは。李斯りし叛かへて。乃すなはち心こころを
り。二世にせ王子おとこは。李斯りしをいけり。李斯りしは
はまら。趙高てうかうの威いをいけり。李斯りしは。我われ威勢いせい
乃すなはち死しみん為なる。李斯りしを鹿しかにけり。李斯りしは
也やも。皆みなのせい。乃すなはち馬うま
といふ事ことなり。拾遺集しやくいじつ離下りかり。其その宣のたまに車くるま乃

のむをういへーつりーくゆりきるはゆらまをを
て侍りまねむ 藤原仲文

へ

のぞきーてるさう久あひまね
るをいをーとあふあふ人し
あーとふえおむるもやあを

まんととのまののこ
の巳己己巳。樂樂樂。暮暮暮暮暮

三九

イコニ キウニ シウニ シウニ シウニ
りあ前 諫諧發句 しくかく

一 去 うち竹乃板でーる也考乃板
屋り梅乃ちがえやつるをみう一思

文

あうづけはくすがまうりれ用をさ
と起はまれおらるる福るやいざら山
やうとふあやうまのひらうい

秋

まの月おをむまの山のふたぐれ
さああやうれなわらうたつる門
病をさう後を何がてゆらわまり一宿

冬

まをさあやあぬらなひえそでせにさう
ね月一雪ひらめわま後乃う
まうりあをさうけすまう一せれみ

早 目出度お乃一かく

一よめ入心こころきんさくやわさし此紙初合
元乃乃らひきみむあがそのそりしれ子親
正月乃乃みねるなり。此のハハきんさくきんさく
内産安源。うきをたさるぬき。女乃乃きんさく
たしきんさくをあら。けけ推察子。病あや
ねと竹たにやら乃様。万感く万々羅
よるのりしみる乃山乃乃あれれ
めめ乃志るしそたのし

母屋仁兵衛新刊

此花葉紙式人つましくれ銀り子視り
此花葉紙にまら皆て書集きんさく心
あまれハもやたらきや紙と天水 此氣親王
御免カキそり中たらさる所く以よる
きんさくたまけ紙よ啼ひく筆の寛
らう粉給よる

慶安貳巳年仲春良辰



藤井吉兵衛尉新刊

